

(2) 福島盆地西縁断層帯

福島盆地西縁断層帯は、宮城県の白石市付近から国見町、桑折町を経て福島市土湯温泉町付近に至る全長約50kmの活断層帯です。このうち、国見町以南の30数km間が福島県内に位置し、県内では福島盆地と西側の山地との境界部に断層が存在しています。

この断層帯は、会津盆地西縁断層帯と同様に、逆断層型の縦ずれ断層で、断層の活動により、福島盆地に対して西側の山地が隆起しています。

過去の活動について

この断層帯のうち、南部(福島市大笹生)では過去における最新の活動時期は約950年前—約2000年前の間であることが明らかになりました。また、この最新活動の1回前の活動が約8000年前—約9000年前の間に起こった可能性が高いことから、活動の間隔は約6000年—約8000年となります。

断層帯の北部(国見町森山)では、最新の活動は約1800年前以前であることが確実にりましたが、北部と南部が一緒に活動したかどうかは不明です。

また、1回の変位量についても、精度の良い値を得ることができませんでした。



福島盆地西縁断層帯の分布図

- : 活断層であることが確実なもの
- : 活断層と推定あるいはその疑いのあるもの

国土地理院発行の1/20万地勢図「福島」に、新編「日本の活断層」(1991)による断層及び調査地点を加筆。